

Voici pour ceux que ça intéresserait, une version du texte japonais de *Gabyô* (Une galette en tableau) qui est le 24^{ème} texte de l'Ancienne édition du *Shôbôgenzô* de maître Dôgen. Il contient de nombreux caractères anciens (certains existent aussi dans une autre graphie).

Après l'introduction le texte a été divisé en quatre parties correspondant aux diverses citations. Dans chaque partie les numéros correspondent, sauf erreurs possibles, aux paragraphes de la traduction de Yoko Orimo dans le tome 4 de l'édition intégrale (éd Sully).

Christiane Marmèche

正法眼蔵第二十四

画餅

1. 諸仏これ証なるゆゑに、諸物これ証なり。しかあれども、一性にあらず、一心にあらず。一性にあらず、一心にあらざれども、証のとき、証々さまたげず現成するなり。現成のとき、現々あひ接することなく現成すべし。これ祖宗の端的なり。一異の測度を挙して参学の力量とすることなかれ。

2. このゆゑにいはいはく、一法纔通万法通《一法纔かに通ずれば万法通ず》。いふところの一法通は、一法の従来せる面目を奪却するにあらず、一法を相對せしむるにあらず、一法を無對ならしむるにあらず。無對ならしむるは、これ相礙なり。通をして通の礙なからしむるに、一通これ、万通これ、なり。一通は一法なり、一法通、これ万法通なり。

I

古仏言わく、画餅不充饑《画餅は飢えを充さず》。

1. この道を参学する雲衲霞袂、この十方よりきたれる菩薩・声聞の名位をひとつにせず、かの十方よりきたれる神頭鬼面の皮肉、あつくうすし。これ古仏今仏の学道なりといへども、樹下草庵の活計なり。このゆゑに家業を正伝するに、あるいはいはく、経論の学業は真智を熏修せしめざるゆゑに、しかのごと

くいふといひ、あるいは三乗・一乗の教学、さらに三菩提のみちにあらずといはんとして、恁麼いふなりと見解せり。おほよそ、仮立なる法は真に用不著なるをいはんとして、恁麼の道取ありと見解する、おほきにあやまるなり。祖宗の功業を正伝せず、仏祖の道取にくらし。この一言をあきらめざらん、たれか余仏の道取を参究せりと聴許せん。

2.画餅不能充飢と道取するは、たとへば、諸悪莫作衆善奉行道取するがごとし。是什麼物恁麼来《是れ什麼物か恁麼に来る》と道取するがごとし。吾常於是切《吾、常に是に於て切なり》といふがごとし。しばらく、かくのごとく参学すべし。

3.画餅といふ道取、かつて見来せるともがらすくなし。知及せるものまたくあらず。なにとしてか恁麼しる。従来の一枚二枚の臭皮袋を勘過するに、疑著におよばず、親観におよばず。ただ隣談に側耳せずして、不管なるがごとし。

4.画餅といふは、しるべし、父母所生の面目あり、父母未生の面目あり。米麵をもちゐて作法せしむる正当恁麼、かならずしも生不生にあらざれども、現成道成の時節なり。去来の見聞に拘牽せらるると参学すべからず。餅を画する丹牖は、山水を画する丹牖とひとしかるべし。いはゆる山水を画するには青丹をもちゐる。画餅を画するには米麵をもちゐる。恁麼なるゆゑに、その所用おなじ、功夫ひとしきりなり。

5.しかあれば、いま道著する画餅といふは、一切の糊餅・菜餅・乳餅・焼餅・稭餅等、みなこれ画図より現成するなり。しるべし、画等・餅等・法等なり。このゆゑに、いま現成するところの諸餅、ともに画餅なり。このほかに画餅をもとむるは、つひにいまだ相逢せず、未捻出なり。一時現なりといへども、一時不現なり。しかあれども、老少の相にあらず、去来の跡にあらざるなり。しかある這頭に、画餅国土あらはれ、成立するなり。

6.不充飢といふは、飢は十二時使にあらざれども、画餅に相見する便宜あらず。画餅を喫著するに、つひに飢をやむる功なし。飢に相待せらるる餅なし、餅に相待せらるる餅あらざるがゆゑに、活計つたはれず、家風つたはれず。飢も一条拄杖なり、横担堅担、千変万化なり。餅も一身心現なり、青黄赤白、長短方円なり。

7.いま山水を画するには、青緑丹雘をもちゐ、奇岩怪石をもちゐ、七宝四宝をもちゐる。餅を画する経営もまたかくのごとし。人を画するには四大五蘊をもちゐる、仏を画するには泥龕土塊をもちゐるのみにあらず、三十二相をもちゐる、一茎草をもちゐる、三祇百劫の薰修をももちゐる。

8.かくのごとくして、壺軸の画仏を図しきたれるがゆゑに、一切諸仏みな画仏なり。一切画仏はみな諸仏なり。画仏と画餅と檢点すべし。いづれか石烏龜、いづれか鉄拄杖なる。いづれか色法、いづれか心法なると、審細に功夫参究すべきなり。恁麼功夫するとき、生死去来はことごとく画図なり。無上菩提すなはち画図なり。おほよそ法界虚空、いづれも画図にあらざるなし。

II

古仏言く、道成白雪千扁去、画得青山数軸来《道は白雪を成じて千扁去り、青山を画き得て数軸来る》。

これ大悟話なり。辨道功夫の現成せし道底なり。しかあれば、得道の正当恁麼時は、青山白雪を数軸となづく、画図しきたれるなり。一動一静しかしながら画図にあらざるなし。われらがいまの功夫、ただ画よりえたるなり。十号三明、これ一軸の画なり。根力覚道、これ一軸の画なり。もし画は実にあらずといはば、万法みな実にあらず。万法みな実にあらずば、仏法も実にあらず。仏法もし実なるには、画餅すなはち実なるべし。

III

雲門匡真大師、ちなみに僧とふ、いかにあらんか、これ超仏越祖《仏を超え、祖を越える》の談。師いはく、糊餅。

この道取、しづかに功夫すべし。糊餅すでに現成するには、超仏越祖の談を説著する祖師あり、聞著せざる鉄漢あり、聴得する学人あるべし、現成する道著あり。いま糊餅の展事投機、かならずこれ画餅の二枚三枚なり。超仏越祖の談あり、入仏入魔の分あり。

IV

先師道く、修竹芭蕉入画図《修竹芭蕉画図に入る》。

1. この道取は、長短を超越せるものの、ともに画図の参学ある道取なり。修竹は長竹なり。陰陽の運なりといへども、陰陽をして運ならしむるに、修竹の年月あり。その年月陰陽、はかることうべからざるなり。大聖は陰陽を覷見すといへども、大聖、陰陽を測度する事あたはず。陰陽ともに法等なり、測度等なり、道等なるがゆゑに。いま外道・二乗等の心目にかかはる陰陽にはあらず。これは修竹の陰陽なり、修竹の歩曆なり、修竹の世界なり。修竹の眷属として、十方諸仏あり。

2. しるべし、天地乾坤は修竹の根茎枝葉なり。このゆゑに天地乾坤をして長久ならしむ。大海須弥、尽十方界をして堅牢ならしむ。拄丈竹篋をして一老一不老ならしむ。芭蕉は、地水火風空、心意識智慧を根茎枝葉、花果光色とせるゆゑに、秋風を帯して秋風にやぶる。のこる一塵なし、淨潔といひぬべし。眼裏に筋骨なし、色裏に膠ちあらず。当処の解脱あり。なほ速疾に拘牽せられざれば、須臾刹那等の論におよばず。この力量を挙して、地水火風を活計ならしめ、心意識智を大死ならしむ。かるがゆゑに、この家業に春夏秋冬夏を調度として受業しきたる。

3.いま修竹芭蕉の全消息、これ画図なり。これによりて、竹声を聞著して大悟せんものは、龍蛇ともに画図なるべし。凡聖の情量と疑著すべからず。那竿得恁麼長なり、這竿得恁麼短なり。遮竿得恁麼長なり、那竿得恁麼短なり。これみな画図なるがゆゑに、長短の図、かならず相符するなり。長画あれば、短画なきにあらず。この道理、あきらかに参究すべし。ただまさに尽界尽法は画図なるがゆゑに、人法は画より現じ、仏祖は画より成ずるなり。

4.しかあればすなはち、画餅にあらざれば充飢の薬なし、画飢にあらざれば人に相逢せず。画充にあらざれば力量あらざるなり。おほよそ、飢に充し、不飢に充し、飢を充せず、不飢を充せざること、画飢にあらざれば不得なり、不道なるなり。しばらく這箇は画餅なることを参学すべし。この宗旨を参学するとき、いささか転物物転の功德を身心に究尽するなり。この功德いまだ現前せざるがごときは、学道の力量いまだ現成せざるなり。この功德を現成せしむる、証画現成なり。

正法眼蔵画餅第二十四

爾時仁治三年壬寅十一月初五日在于観音導利興聖宝林寺示衆

仁治壬十一月初七日在興聖客司書写之

懷牂